

# 麻酔科研修医マニュアル ver.1.0

(2023/1/31 作成)

## 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	8:15- Cf 病院 3 階 Cf 室 麻酔	麻酔	8:00- Cf 病院 3 階 Cf 室 麻酔	麻酔	麻酔	休み	
午後	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔	麻酔		

\* Cf:カンファレンス

・朝の手術患者入室は 8 : 20 以降のため、準備が間に合う時間に出勤してください。

・担当の症例にもよるが、おおよそ 17 時から 18 時頃に勤務終了となることが多い。

(場合によって少し遅くなることがあります)

・勤務初日は 8 時に麻酔科控室 (病院 3 階手術部内) に着替えて集合すること。

## ◎到達目標

### 麻酔科研修時の到達目標の目安

#### 【知識】

4 週間

- ・麻酔に必要な患者の情報を収集し、指導医に報告できる。
- ・術前患者の ASA-PS の評価ができる。
- ・軽微な全身疾患を持つ患者 (ASA-PS<2) に対する麻酔について、麻酔プランを計画できる。
- ・比較的小さな手術の麻酔術中管理を行うことができる (血圧調整、輸液の選択や調整、人工呼吸器の調節などを含む)。
- ・抜管の可否について判断ができる。
- ・全身麻酔後の患者の帰室の可否についての判断ができる。
- ・術後診察の注意点を理解し、適切にカルテ記載ができる。
- ・適切なタイミングで指導医に報告ができる。
- ・超音波ガイド下の神経ブロックについて、超音波画像での神経や周囲の構造物についての解剖が理解できる。

8 週間

・高度な全身疾患を持つ(ASA-PS3)患者に対する麻酔について、麻酔プランを計画できる。

・指導医の下で出血のリスクが高い大手術（開心術は除く）の麻酔管理を行うことができる。

・術前診察において麻酔の説明ができ、患者の質問に答えることができる。

#### 【技術】

4 週間

・マスク換気が一人で実施できる（エアウェイなどの器具の使用も含む）（18 例）。

・指導医の介助の下で気管挿管および声門上器具を用いた高度な気道確保ができる（15 例）。

・末梢静脈路の確保および動脈圧ラインの確保ができる（18 例）。

・適切な人工呼吸器の設定を行える（15 例）。

8 週間：

・指導医の介助の下に腰椎穿刺を実施できる（3 例）

・超音波ガイド下に末梢静脈路の確保ができる（10 例）

・指導医の介助の下に超音波ガイド下に中心静脈カテーテル挿入を実施できる

(3例)

- ・指導医の介助の下に、体幹の超音波ガイド下の神経ブロックについて穿刺に必要な画像を描出できる。また、ブロックの薬液注入などの介助ができる（10例）。

\* 研修医の手技に対する学習や理解度に応じて指導医が実施させるか判断することになるため、個々の研修医の到達目標は大きく異なることがある。

#### ◆術前診察

各曜日の手術予定と担当麻酔科医の配置表が麻酔科控室のホワイトボードにあるので、担当症例を確認しておいてください。術前診察は基本的に手術の前日に行います。患者が診察室に降りてくる時間が決まっているので、手術予定表と同じホワイトボードの割り当て表で診察時間の確認をしておいてください。診察の時間までに指導医と術前診察のポイント注意点などを確認しておくことが必要のため、準備は前もって行っておくこと。基本的に指導医同席のもと診察および麻酔の説明を行います。

#### ◆術中管理

担当症例は指導医と一緒に麻酔の導入、維持、覚醒を行います。基本的な処置など率先して参加するようにしてください。何かわからないことがあればすぐに指導医に連絡するようにしてください。麻酔計画を立てるとき（手術前日）に具体的な管理目標や注意点などについてしっかりと相談をしてから当日に臨むようにしてください。

#### ◆術後診察

手術翌日以降から退院までのタイミングで担当した患者を訪問して術後の様子をカルテに記載するようにしてください。最初は担当した指導医と一緒に術後訪問を行い、麻酔関連の合併症や有害事象がないかどうか診察を行います。

#### ◆サポートおよびトラブル発生時の対応

基本的に各曜日のチーフに連絡すること。

緊急時の場合は麻酔科緊急連絡先 PHS に連絡すること。